

## ぎふ専研【岐阜商工会議所専門家研究会】

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。  
主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。

1603年、関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康は征夷大将軍に任命された。しかし、その僅か2年後の1605年、将軍職を三男の秀忠に譲った。家康は、将軍職を譲る際、家臣団を集め、3名の息子のうち誰が適任か議論させているようである。その結果家康は三男の秀忠を選んだ。家康は、その後も実権を握っていたが、秀忠も家臣らからそれなりに信頼を得ており、



## 3 德川家の事業承継

た。このとき秀吉は61歳、秀頼は5歳である。秀頼は秀吉から何も学べなかつた。その後、関ヶ原の戦い、大阪冬、夏の陣を経て、秀頼は淀殿とともに自害し、豊臣氏は実権を失つた。



## 4 各事例から何を読み取れるか

事業承継に成功した徳川家と失敗した武田家、豊臣家では何が違うのでしょうか。様々な要因があるでしようが、テーマに沿つて考えると、一つ目は、お家存続（以後は、「事業継続」といいます）のため、早くから事業承継問題を意識し、そのための策に実際に着手してきたかどうかです。創業者は事業への執着もあり、感情的にもなかなか事業を手放せません。しかし、事業承継には後継者教育を含めそれなりに時間が必要です。二つ目は、適正な権限委譲を行ってきたことです。権限委譲は先代にとっていろいろな意味で不安でしょう。しかし、権限不十分ではリーダーシップは身につきませんし、周囲の信頼も得られません。時代は繰り返されるようです。是非歴史を参考にして良き経営を行ってください。



## 【戦国の歴史に学ぶ】

## 戦国武将に見る事業承継の失敗事例と成功事例

かな口 崇  
弁護士

## 1 武田家の事業承継

武田信玄は父信虎を追放し武田家当主となり、その後、勢力を急拡大して戦国有数の大名となつた。ところで、信玄には嫡男義信がいたが、義元が桶狭間の戦いで織田信長に討たれた後、信玄と義信との間で今川との関係を巡つて意見が対立したため、信玄は義信を幽閉し、廃嫡处分にした。その後、義信は幽閉先に倒れ、亡くなつてしまつ。後継者指名後、勝頼に対する権限委譲は不十分で、重臣達の信頼も低かつたようである。勝頼は自己の存在感を増すべく領地拡大を進める中、長篠の合戦が発生し、武田軍は織田軍の鉄砲隊に



2 豊臣家の事業承継  
豊臣秀吉は、1584年に関白、1586年に太政大臣に任命され、全国を平定、天下統一を果たした。1591年、弟の秀長、後継者に指名していた鶴松が、相次いで病死したため、秀吉は甥の秀次に家督及び関白職を譲つた。ところが、その後側室の淀殿に秀頼が生まれ、秀玄は側室の子勝頼を後継者に指名したが、その僅か2年後病で自害した。これを受けて、信玄は側室の子勝頼を後継者に指名したが、その後病で倒れ、亡くなつてしまつ。後継者指名後、勝頼に対する権限委譲は不十分で、重臣達の信頼も低かつたようである。勝頼は自己の存在感を増すべく領地拡大を進める中、長篠の合戦が発生し、武田軍は織田軍の鉄砲隊に

壊滅的な敗北を喫した。その後、甲州征伐により勝頼は信長に敗退し、自害した。これにより甲州武田氏は滅亡した。

弁護士  
かな口 崇 氏

**PROFILE**  
カナクチ タカシ  
「かなくち経営法律事務所」を設立。  
中小企業支援は関係者の連携なくして不可能との考え方から、各地の商工会、商工会議所、各士業者と連携して中小企業支援を行っている。



## 事業承継のポイント

- 一、事業承継は時間を要するので早めに意識し対応策を着手する。
- 二、不安な気持を抑えて適正な権限委譲を行う。

\* 史実は諸説があります。本文とは異なる説もあるりますのでご了承ください。  
\* イラストはイメージです。